

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、緩やかに回復している。
先行きについては、慎重さがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲29.0と、前期比で1.6ポイント増加し、4期ぶりに改善した。業種別では、製造業は3期ぶりに改善し、非製造業は2期連続で改善した。先行きについては、「良い方向に向かう」「どちらともいえない」が前回調査から減少し、「悪い方向に向かう」が増加した。
- 売上げD Iは3期連続で改善した。
- 資金繰りD I・採算D Iは2期ぶりに改善した。
- 設備投資の実施率は3期ぶりに減少した。
- 来期については、売上げD I・資金繰りD I・採算D Iは、当期D Iより悪化する見通しである。また、設備投資実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：平成30年7～9月期、「当期」：平成30年10～12月期、「来期(先行き)」：平成31年1～3月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲29.0となり、4期ぶりに改善した。前年同期比はほぼ横ばいであるが、前期比で1.6ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲25.0)は3期ぶりに改善し、非製造業(▲32.2)は2期連続で改善した。

<景況感D Iの推移>

	当 期 (H30.10-12)	前 期 (H30.7-9)	前年同期 (H29.10-12)
全 体	▲29.0	▲30.6	▲29.0
製 造 業	▲25.0	▲27.0	▲26.2
非製造業	▲32.2	▲33.5	▲31.2

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は7.4%（前回調査(H30.7-9月)比▲3.5ポイント）、「悪い方向に向かう」とみる企業は26.9%（前回調査比+7.9ポイント）だった。

先行きD Iは▲19.5（前回調査比▲11.4ポイント）と、2期ぶりに悪化した。

<来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (H31.1-3)
全 体	7.4%	26.9%	▲19.5
製 造 業	8.6%	23.8%	▲15.1
非製造業	6.3%	29.4%	▲23.0

2 売上げについて

売上げD Iは▲7.4（前期比+7.1）となり、3期連続で改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期連続で改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより悪化する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (H30.10-12)	前 期 (H30.7-9)	前年同期 (H29.10-12)	来期見通し (H31.1-3)
全 体	▲7.4	▲14.5	▲3.1	▲19.7
製 造 業	1.2	▲9.8	4.0	▲17.2
非製造業	▲14.3	▲18.3	▲8.7	▲21.7

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲12.7（前期比+3.1）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより悪化する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (H30.10-12)	前 期 (H30.7-9)	前年同期 (H29.10-12)	来期見通し (H31.1-3)
全 体	▲12.7	▲15.8	▲10.1	▲19.1
製 造 業	▲8.7	▲14.8	▲8.1	▲17.2
非製造業	▲15.8	▲16.6	▲11.7	▲20.6

4 採算について

採算D Iは▲18.4（前期比+5.2）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより悪化する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (H30.10-12)	前 期 (H30.7-9)	前年同期 (H29.10-12)	来期見通し (H31.1-3)
全 体	▲18.4	▲23.6	▲14.9	▲23.8
製 造 業	▲12.1	▲20.9	▲10.5	▲19.5
非製造業	▲23.5	▲25.9	▲18.4	▲27.3

5 設備投資について

実施率は23.1%となり、3期ぶりに減少した。来期も減少する見通し。

業種別にみると、製造業は3期連続で増加し、非製造業は2期ぶりに減少した。

来期については、製造業、非製造業ともに減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (H30. 10-12)	前 期 (H30. 7-9)	前年同期 (H29. 10-12)	来期見通し (H31. 1-3)
全 体	23.1%	23.5%	23.1%	20.6%
製 造 業	28.7%	28.6%	26.7%	26.5%
非製造業	18.7%	19.5%	20.3%	15.8%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降をご覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・受注状況は依然として好調であり、景況感は良好であると感じている
- （金属製品）・受注は堅調であるが、原材料の高騰などがあり景況感は普通である
- （印刷業）・受注が減り、競争も激しいため不況である
- （スーパー）・物価は上昇傾向だが、消費者が醸し出す「デフレ感」が強まっている。高いものは購入せず、安いものに目がいくようになっている
- （情報サービス業）・全体的に忙しく、景気は良好であるとみている
- （建設業）・受注状況は好調であるが、経費が増大していることから景況感は普通と感じている

【売上・採算】

- （一般機械器具）・食品関連と医療関連の売上げが増えている
- （輸送用機械器具）・欧州向け建機・自動車関連が減少。中国向け建機はやや減少した
- （プラスチック製品）・今年の台風の影響で修繕用の屋根建材が好調
- （銑鉄铸件）・好調である。仕事は多い。年間生産量は当社最高レベルのペースである
- （百貨店）・郊外店は、近隣のスーパーと競合しており、食料品の売上げが苦戦している
- （商店街）・商店街振興組合連合会の企画で、商店街を巡る観光バスツアーを実施したが、好調であった
- （サービス業）・バス旅行の最低受注額の増額が世間で認知されてきており、好調に推移している

【今後の見通し】

- （輸送用機械器具）・1～3月期は下がるが、4月以降は上昇の見込み
- （電気機械器具）・米中貿易摩擦の影響が大きい
- （食料品製造）・様々なチャネルで販売ができつつあり、景況感は良い方向に向かうとみている
- （商店街）・来街者は減少する時期ではあるが、景況感はそのままで悪くないのでは
- （サービス業）・受注状況が不透明であり、どちらともいえない
- （スーパー）・増税の悪影響が出てくるだろう。小売業は、外税表示でないと生き残れない